



# 至誠通天 6



2024年7月1日(月)

## 「鳥肌がたちました…。」

修学旅行でお世話してくださった近畿日本ツーリストの方が、ある時、こう言っていました。

「僕も、石川県以外も含めていろんな学校を見てきましたけど、こんなに整然と入退場できる学校を初めて見ました。鳥肌が立ちました…。」

学年集会での体育館入退場の様子を見て、です。

昨年度は、集会終わりの挨拶の後、ざわざわしていました。「整然」ではありませんでした。

しかし、3年生になるに伴って様子が変わりました。そして修学旅行以降も何度か学年集会を行っていますが、鳥肌を立たせた「整然」が続いています。静かにしなさいなどと言われずとも、です。立派です。

集会では、体験入学のこと、推薦入試のこと、順々に部活動を終えていくこれからのこと、運動会のことなど、大切な話をしてきました。自分たちで「整然」をつくり出せる生徒たちですから、それらの話をしっかりと受け止めてくれていると感じます。

3年生の今、部活が終わっていくとともに入試に関する話題が増えてきました。また、運動会についても動き出しましたが、昨年までとは違います。最上級生として、応援リーダーを中心に後輩たちに兼六中の良き伝統を示していく番です。こういったことを通して、中学校卒業という人生の節目に近づいて来ている実感も徐々に湧いてきていることでしょう。

この7月。各部活動にとって最後になり得る大会が、毎週末行われます。中学入学以来、最も大きな区切りの時。ご家庭の支えもいただきながら、力強く進んでほしいと願っています。

### 7月3日(水)「観能教室」 ※8:10学校出発

バスで県立能楽堂まで移動し、能と狂言を鑑賞します。金沢市出身のご家族の方は、同じく中学生時代に鑑賞しています。昭和24年から続く、伝統芸能が息づく金沢ならではの教室です。

#### 能「羽衣 (はごろも)」

富士山を望む「三保の松原」の天女伝説を元にした演目。漁師が、松の木の枝にかかった世にも美しい衣を見つけます。そこに女性が現れて返してほしいと言いますが、漁師は返そうとしません。女性は天女で、衣がないと天に帰れないと嘆き悲しみます…。



#### 狂言「附子 (ぶす)」

主人が留守の間、「附子」という猛毒の番をするように命じられた太郎冠者 (たろうかじゃ) と次郎冠者。しかし番をしているうちに中身を見てみたくなり、毒をくらわないように必死にあおぎながら見ようとします。そうするうちに、中身が毒ではないことに気づいた二人は…。

